

# 農作業三大リスクに注意

## 事故データに基づくリスク分析



優先して対処すべきリスク

J A 共済連は、農作業事故の要因を分析してまとめた。事故の発生件数が多く、かつ、重症になる可能性が高いものとして、乗用トラクターと脚立、はしごの三つを挙げ、「優先して対処すべきリスク」と区分した。これらに関わる農作業では「特に気を付けて安全対策を取る必要がある」と訴える。

## 共済連が分析

(J A 共済連の資料を基に作成)

# 乗用トラクター・脚立は「ハイ」

共済連が保有する、人がけがを負った時の傷害共済データ2万1634件、農業用車両の物損事故にかかる自動車共済データ1万4990件を分析した。作業内容ごとに、発生件数と重症度の二つの指標でリスクマップを作成した。

乗用トラクターの事故は転倒・転落が多く、車体の下敷きになるなど死亡や重症となるリスクが高い。高所からの転落事故が多い脚立、はしごと合わせ、安全対策を重点的に取る必要があるとした。農水省が主導する秋の農作業安全確認運動でも、トラクターなど農機の転落・転倒の防止を重点としている。

インに腕を、トラクターに脚を巻き込まれる事故などが発生している。件数が多いが重症度は低いものに刈り払い機を挙げた。

共済連は分析を基に、特に「注意すべき事故」を学ぶことのできる仮想現実(VR)動画を作成。トラクターの転倒や脚立からの転落など、8種類の動画で、同共済連のホームページで閲覧できる。

共済連は、後遺障害が残る事故と、入院や通院を要する傷害事故の件数も推計。2021年は、後遺障害事故が601件で、傷害事故が6万4475件と推計した。農水省がまとめた死亡事故件数(242件)の260倍を超え、「死亡事故は農作業事故の氷山の一角」としている。

(古田島知則)